

成果指標				
成果指標	執行率(%)=(需用費等)決算額÷予算額			
指標設定の考え方	支出削減でコスト縮減につながる。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	
目標	90%	90%	90%	0
実績	72.4%	94.6%	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	2	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	道路の交差点等に設置する街路灯は、道路管理者として交通事故防止の観点から適正に維持・管理するため、修繕等にかかる費用は必要な経費であり、適正に執行できている。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	2	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	担当責任者が記載のとおり。今年度の決算額が前年に比べ、約210万円増加しているのは、伊予港埋立地の市道臨海3号線は県から占用して使っていたが、26年度に市道用地代金約240万円で土地取得したための増額であります。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題